えんがわ

2019 年 11 月 1 日発行
出雲市古志町 344
社会福祉法人ことぶき福祉会
『笑庵ことぶき』
発行責任者：施設長　加田　誠
TEL:(0853)25-7701
FAX:(0853)25-7702
Mail:shouan@carol.ocn.ne.jp

「誰もが幸せな高齢社会を求めて」第二章を読んで①

清鈴園の猪股さんのお話の中で、３０年以上も前から個別ケアやリハビリについて言われていたというのは驚きましたし、だからこそ今があるのだと思いました。以前、猪股さんの講演を聞かせて頂いた時に「当たり前にやっている事は過去の人達がやってきたことの蓄積」と仰っておられたのが印象的でしたが、何もないところからの取組みをされてきた方達の努力があって今の介護があるのだと改めて思います。話の中にあった、介護保険制度になって「色気がない」という意味が、制度に縛られているという事だと思っていたのですが、もっと意味があるのかなと考えさせられますし、私にはまだ理解できていないと思うので、これからこの仕事をして学んでいく中で理解できるようになっていきたいです。

人材確保について介護の魅力を伝える取組みのお話がありましたが、私の周りにも介護に対して良いイメージを持っている人は少ないです。友人にも「どうしてやっているの。私は嫌。」といわれたことがあります。やりがいもあり、お年寄りさんから学ぶことも多く魅力のある仕事だと思うのですが、マイナスのイメージが強かったり、結婚された方は給料が安く他の職種に転職する方もおられました。賃金の確保と、介護の良い面が伝わって欲しいです。

近江福祉会の高井さんのお話で知っているだけでなく、語れて実践するというのが印象的です。改めて学ぶことは大切なのだと思い、私はまだまだ知識も経験も浅く足りない所も多くあるので、福祉について学び実践してこられた方々の歴史や身近な先輩方からも勉強させていただいて、考え実践していけるように努力していきたいと思います。

１０月２０日(日)ことぶき園と笑庵ことぶき、ことぶきの里合同運動会を開催しました。ご参加頂いた皆様ありがとうございました。

「誰もが幸せな高齢社会を求めて」第二章を読んで②

清鈴園の猪股さんの言葉に、「介護保険の中で手続きだとか色々な事の中で、埋没してお年寄りに向き合うことを忘れて、監査の方に我々は向いてしまったのではないか」と、ありました。近年では、何かと〇〇加算などお金のことをよくニュースや新聞で見かけます。ですが、本来はそのようなことではなく、お年寄りさんの生活を大事にするべきなのではないかと思います。

私の祖母も介護施設に入所しています。叔母の話だと、施設内で骨折し一人での介助が難しくなり、行事、入浴以外は居室で過ごしているそうです。その話を聞いて、私は寂しい気持ちでいっぱいでした。以前は畑仕事をしたり、近所の方とお茶をしたりする生活でしたが、今では人と話す事も減り笑顔も少ない感じがします。施設でも以前のように、なるべく生き生きと過ごせる生活をして欲しいと思います。お年寄りさんと向き合うとはそういうことなのかなと思ったりします。

小笠原先生の言葉で職員配置について、目が届く会話が聞こえる範囲でいつも職員がいるくらいの利用者対職員数が少なくとも日中は確保されていること。しかも全部手を出さなくても見てくれているという安心条件を利用者にどう作るかということが大切で、あれもこれも手を出して口を出して体力勝負で全部やるケアを卒業する必要があるのではないか。そして、ケアをする職員体制を含めた職員の勤務条件をどう作るか、そこが日本には本当に欠けている。とありました。

介護施設の多くは、日常がマニュアル化されている気がして何時には〇〇をして、〇〇を何時までにしなければならないなど、職員もそのことをこなすのに精一杯でお年寄りさんとの時間をなかなか取りにくいのではないかと思います。

対照的に、笑庵ことぶきは本当に家にいるかのような気持ちになります。職員の皆さん誰もがせかせかしておらず、ゆったりとした気持ちの中でお年寄りさんと過ごしているよう感じます。お年寄りさんも個々に自分のしたいように過ごされています。本当に自分の家で過ごしているかのような雰囲気が笑庵ことぶきにはあると思います。

そんな雰囲気を大切にし、お年寄りさんの生活の場を壊さぬよう日々を過ごしていきたいと思っています。お年寄りさんの今の声を逃さぬよう沢山会話をしたり、目を向けて仕事をしたいと思います。